

第3章 将来像を実現するための基本スタンス

求められる中部地方の将来像を実現するうえで、必要とされる政策を無駄なく着実に実行するため、8つの基本的スタンスのもとで国土交通行政を実施していきます。

第1節 既存ストックの活用

欧米諸国に比べて社会資本整備の歴史が浅い我が国では、未だ整備が立ち遅れている分野・地域が存在しています。一方で、少子高齢化の進展に伴う投資余力の減少が懸念され、既存の社会資本を維持管理及び更新する費用も増大すると考えられています。今後の社会資本整備においては、これまでの社会資本の蓄積を踏まえ、既存ストックの有効活用を進めるとともに、適切な維持管理（アセットマネジメントシステム¹の活用など）を行い、施設の長寿命化を図ります。

【地域の声】

- ・ 新しい何かを作るのではなく、中部圏の資産をどのように再編成しブランド化していくかという発想に立たなければいけない。（ビジョン討論会浜松会場）
- ・ 長期的、柔軟に変化できる計画をきちんと立てて進めなければいけない。一番重要なのは新しいものを作るよりは、今あるものを質の高いものに変えていくこと。（ビジョン討論会岐阜会場）

第2節 ハード・ソフト施策の戦略的組み合わせ

従来の社会資本整備は、とすると施設の整備に偏り、それ自体が目的化する傾向にありました。社会資本の整備を軸に地域づくりを適切かつ円滑に誘導していくためには、施設整備を目的化することなく、必要な施設整備を行うとともに、例えば港湾機能の24時間化や荷役の迅速化、地域住民のためのバス路線ネットワークの充実などのソフト施策を推進、充実することが不可欠であり、ハード面とソフト面の両者を適切に組み合わせて実施していくことが重要です。また地域住民への情報提供や社会実験、構造改革特区²制度を活用した地域づくりを行い、ソフト施策を戦略的に組み合わせた政策展開を進めます。

【地域の声】

- ・ ソフトが地域を盛り上げる時代。人づくり、まちづくり、環境づくり、思い出づくり等、「つくる」がこれからの大きなテーマ。（ビジョン討論会高山会場）
- ・ 物流が中心になってしまった道に、もう少し意味合いや味わいを加味し、物語性なども付け、みんなの愛する道にしていけば良い。（ビジョン討論会伊勢会場）
- ・ 効率性やハード面にとらわれすぎず、美的価値や生活の質を向上させる社会資本整備を。（まんなか討論会）
- ・ ハードづくりとソフト面の融合が重要である。（ビジョン討論会岐阜会場）
- ・ バスなどの公共交通の支援・パークアンドライド³の推進を。（市町村長ヒアリング）

¹ アセットマネジメントシステム：[asset management system] 道路の舗装、橋梁、トンネルなどの構造物を社会資本整備における資産と捉え、その損傷や劣化等を将来に渡り把握することで、最も費用対効果の高い維持管理を行うこと。

² 構造改革特区：規制改革を行うことによって民間活力を最大限に引き出し、経済の活性化を図る目的で、地域の特性に応じた規制の特例を導入する特定の区域。

³ パークアンドライド：[park and ride] 郊外の駅まで車で行き、そこから、バスや電車に乗って市街地等へ向かう方式。

- ・ 行政、住民、企業の連携による協働型まちづくりにおいてはこれまで、ソフト面に重点が置かれがちであった。ハードな部分まで踏み込んでソフトとハード両方の面からまちづくりを考えていくことが必要。（ビジョン討論会岐阜会場）

第3節 住民参画

国民に開かれた政策運営が強く求められるなか、個々の施策や事業の推進においては、これら施策・事業の計画段階に先立つ構想段階から地域住民等の積極的な参加を促し、住民本位の政策運営として、積極的な対話と政策展開における協働を進め、地域住民とのパートナーシップの構築を図ります。また、協働を通じて地域づくりの核となる人づくりを支援します。

【地域の声】

- ・ 市民の意見をどう聞きどう施策に移すか、パートナーシップを組めるような連携のあり方の構築が必要。（まんなか懇談会）
- ・ 行政のみに任せるのではなく、一般市民の参画と協力が重要な役割を果たす。（ビジョン討論会名古屋会場）
- ・ 地域住民との理解醸成・協力によるまちづくりが必要。（市町村長ヒアリング）
- ・ 少子高齢化、産業構造変化などの問題解決には民間と行政が協働する形で取り組む必要がある。（ビジョン討論会浜松会場）
- ・ 100年後、50年後のあり方を考えるうえでは、50年後に生きている20～30代の意見をもっと聞くべき。（まんなか懇談会）
- ・ 今考えるべきこと、今為すべきことを地域に暮らす人々自身が、本音で語り合える機会を多く設けて、地域づくりの輪を広げていくことが肝心。（ビジョン討論会伊勢会場）
- ・ 地域の方々が社会のために犠牲を払うという意識も今後、特に中部においては大切では。（まんなか懇談会）

第4節 IT活用

世界的に急速に進展するIT化を踏まえて、行政手続きなどの電子化による効率化を推進するとともに、地域住民の視点に立ったきめ細かい地域への情報提供の推進や、スムーズな交通環境を実現するITSの推進など、積極的にITを活用します。

【地域の声】

- ・ IT以外の情報源で情報を入手している人へのフォローアップも必要。（ビジョン討論会伊勢会場）
- ・ 行政は、計画に対する市民参加の手法としてインターネットをもっと利用することが必要だ。（ビジョン討論会豊橋会場）
- ・ 様々なメディアを使いながら、市民参加の共同プロジェクトを誰もが楽しんで知ることができるような情報発信の仕方があると良い。（ビジョン討論会浜松会場）

第5節 分野間の連携強化

地域住民の視点に立ってよりよい行政サービスを提供していくため、縦割りの政策展開からの脱却を図り、総合的で効率的な政策展開へと転換するため、社会資本整備計画の一本化を進め、地域の課題に対して事業分野間の横断的な連携や調整の強化を図ります。

【地域の声】

- ・ 計画同士のつながりが分かりにくいので、計画全体の流れを示す相関図的なものがあるとビジョンの意味が分かりやすくなる。(ビジョン討論会伊勢会場)
- ・ 他省庁と連携し、国として統一したビジョンを示すべき。(まんなか懇談会)
- ・ 基盤整備には、国、県、市町村、住民の立場を越えた長期的な連携が必要。(まんなか懇談会)
- ・ 防犯対策が防災対策にもつながる。警察や町内会などの地域コミュニティが連携していくことが必要。(ビジョン討論会名古屋会場)

第6節 コスト縮減・技術開発・重点化・効率化

厳しい財政事情の下で社会資本整備を着実に進めていくため、コスト縮減など社会資本整備の効率化に資する技術研究開発の推進に努めます。また、事業評価¹を厳格に実施することにより真に必要な事業を厳選するとともに、都市再生、経済活性化、地球環境、少子高齢化社会への対応など課題の重点化を図り、重点地区への事業の集中投資を行うことによって効率的で最大の効果の創出を目指した社会資本整備を行います。また、整備効果の早期発現や整備コストの縮減に向け、構造基準の緩和や地域の実情に応じた最適な構造を適用していきます。

【地域の声】

- ・ 何を整備し、何を止めるのかを官民が協力して決めることが緊急の課題。(まんなか懇談会)
- ・ 今後の高速道路の整備については、少子高齢化により自動車数が減少するので、上下4車線というルールも、例えば地域により2車線にするなどしてはどうか。(市町村長ヒアリング)
- ・ 今まででは放っておいても道路整備何力年計画という形で整備が進んでいたが、そういう時代はもう終わった。道路、交通機関は何のために作るのか、何のために必要なのかということを考えなくてはならない。(ビジョン討論会伊勢会場)
- ・ 駅周辺での総合的な市街地整備事業の推進が重要。(市町村長ヒアリング)
- ・ 市街地再開発事業や優良建築物等整備事業等による都心居住の促進が必要。(市町村長ヒアリング)
- ・ これからの中期計画を考えるうえでは、「国土の均衡ある発展」に変わる理念、目標を考える必要がある。(まんなか懇談会)
- ・ PDCA²を行い、インフラが有効に使われているかチェックしながら政策を実現していくことが大切。(まんなか懇談会)

¹ 事業評価：個別の公共事業や研究開発について、その必要性や成果に対して事前や中間・事後に評価する制度。

² PDCA：[Plan, Do, Check, Action] Plan(計画)→Do(実施)→Check(確認)→Action(対策実行)といった効果的な業務管理を行うための一連の段階のこと。マネジメントサイクル(p.122 脚注参照)とも呼ばれる。

第7節 環境共生

社会資本整備は、事業の実施過程で自然環境・周辺環境に影響を及ぼす行為であるため、環境保全に最大限配慮することが必要です。今後の社会資本整備については、環境への影響について最大限に回避、低減を図ることはもちろん、自然環境に影響が見られる場合においては積極的にその再生に努めます。また、環境や景観と共生する質の高い社会資本整備に努めます。

【地域の声】

- ・ 現在破壊から免れている自然を保護するというだけでなく、進んで自然を共有資源として復元し、整備していく方策が必要。（ビジョン討論会岐阜会場）
- ・ 幹線道路沿線の騒音・振動対策が必要。（市町村長ヒアリング）
- ・ 自然環境と調和するようなインフラ整備が望まれる。（ビジョン討論会高山会場）
- ・ 社会資本整備では、美意識や美しさが大切であり、そのためには質の高いもの、本当によい社会資本を作ったり、維持していくことが大事。（まんなか懇談会）
- ・ 情報の均一化、開発の均一化に対し、一方で危機感を持たないと地方独自の景観は保てない。（ビジョン討論会高山会場）

第8節 民間活力の活用

これまで行政が担ってきた社会資本の整備や管理に、民間の資金やノウハウを活用することは、より効率的に社会資本整備を行うという目的と、民間投資や消費を誘発し、雇用を促進するうえでも重要な方法と言えます。今後の社会資本整備においては、民間の経営手法や技術の導入を図るとともに、民間投資や消費、雇用の誘発効果に配慮した事業執行を進め、規制緩和等と併せて進めることにより、民間活力の最大限の活用と発現に努めます。また、PFI¹制度の活用やNPO²や民間委託の活用を通じ、可能なものは民間に任せしていくような政策を運営していきます。

【地域の声】

- ・ 厳しい財政状況において、民間の力やノウハウをどのように取り込むかという視点がますます重要。（まんなか懇談会）
- ・ 都心居住については民間も含めて行うのがよい。（ビジョン討論会豊橋会場）

¹ PFI：[Private Finance Initiative] 公的部門による社会資本の整備・運営に民間資本や経営ノウハウを導入し、民間主体で効率化を図ろうという政策手法のこと。

² NPO：[Non Profit Organization] 営利目的でない社会貢献活動を行う団体（民間非営利団体）を指す。1998年（平成10）年に成立した特定非営利活動促進法（NPO法）は、非営利活動を行う法人格を与え社会的に認知することで、非営利活動としての社会貢献活動の推進を目指している。